

平成28年度事業報告書

平成28年度において実施した本会事業の概要は次のとおりである。

1 広報事業

(1) 社会貢献広報事業の実施

宝くじの社会貢献広報事業として、公益法人等が行う社会福祉、社会教育、青少年育成、安心安全、その他公益の増進に寄与する事業に対し、平成28年度は94団体に、総額2,732,684,989円（消費税込み）の助成を実施した。

(2) 宝くじドリーム館の管理運営

宝くじの恒常的な普及宣伝、情報発信基地としての東京及び大阪の宝くじドリーム館において、日本の宝くじの歴史、宝くじの収益が全国の街づくりに役立っていることを紹介するコーナー、宝くじの発売スケジュールや過去1年間の当せん番号が検索できるコーナーなどを常時設置するとともに、特別パネル展、宝くじデザインコンテスト、ランチタイムコンサート等の催し物を実施し、宝くじをより深く理解していただくとともに、宝くじが地方自治体の貴重な財源として、全国の街づくりや住民生活の向上に寄与していること等宝くじの公益性、役割等について積極的な広報を行った。なお、平成28年度におけるドリーム館の入館者は東京85,253人、大阪66,087人であった。

また、宝くじの抽せん会の場所の提供を行い、東京では、「東京都宝くじ」を19回、「地域医療等振興自治宝くじ」を3回、「全国自治宝くじ」を2回のほか、数字選択式宝くじは「ナンバーズ」を478回、「ミニロト」を47回、「ロト6」を95回、「ロト7」を49回行い、年間693回の抽せんが行われ、大阪では数字選択式宝くじの「ナンバーズ」を40回、「ミニロト」を4回、「ロト6」を8回、「ロト7」を4回行い、年間56回の抽せんが行われた。

2 調査研究事業

(1) 宝くじに関する世論調査の実施

宝くじに関する消費者の意識、購入実態、宝くじに対する評価等を把握し、発売団体等の今後の宝くじの企画運営に資するため、3年ごとに世論調査を実施しているが、当年度は当該調査の実施年に当たることから、全国の満18歳以上の個人約1万人を対象として世論調査を実施し、その結果を宝くじ関係機関等へ配付した。

(2) 宝くじに関する調査及び資料作成

平成28年度は、宝くじ関係者の実務の参考に資するために、宝くじに関する消費者の意識、要望等を調査した「宝くじ動向調査」及び「海外主要国の宝くじ人気商品」を作成して、宝くじ関係機関等へ配付した。

3 世界宝くじ協会（WLA）、アジア太平洋宝くじ協会（APLA）との連絡協調

平成28年度においては、アジア・太平洋宝くじ協会（APLA）の常任理事会が4月にミャンマー（ヤンゴン）で行われ、また、総会が11月にシンガポールで開催され、また、世界宝くじ協会（WLA）の総会は、アジア太平洋宝くじ協会の総会と同時期にシンガポールで開催され、それぞれの会議に、国際協調を図るために出席した。

平成28年度事業報告 附属明細書

平成28年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。